

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方策
<ul style="list-style-type: none"> ○ みんなの笑顔があふれ、落ち着きと活力のある当仁 ○ 『4つの“り”』—かかわり・ねばり・やくわり・おもいやり—を实践するやさしく、かしこく、たくましい子 ○ 教育職としてのプロ意識を確立し、識見と指導力を高めるとともに、豊かな人間性を培うために研究と修養に励む教師 		<p>基礎学力の定着とともに新たな学びを一人一人に実現できるようにする。</p> <p>地域諸団体・PTA・中学校との連携をさらに深めて、より信頼される学校づくりに取り組む。</p> <p>学校の働き方改革に取り組む、新しい時代の教育に向けた持続可能な指導と運営体制を構築する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「盈進スクール」の成果を生かし、学力の状況に応じた対象者の選考と連動を図る。 ○ 新学習指導要領の全面实施に対応するため、カリキュラム・マネジメントや主体的・対話的で深い学びの実現に向けた更なる授業改善に取り組む。 ○ ゲストティーチャーとして地域の人材を招聘するだけでなく、地域が行っている活動に子どもたちが参加するカリキュラム等を作成・実施する。 ○ いじめ、不登校、児童虐待、体罰等を未然に防ぐための研修や家庭教育、見守り活動などを諸団体と協力して実施する。 ○ 教員本来の業務である児童に対する学習指導(そのための教材研究)と生徒指導に専念できるよう、業務内容の見直しとシステムづくりを行う。 ○ ワークライフバランスを考え、健康保全と教材研究が両立するよう超過勤務を是正するプロジェクトを立ち上げる。
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
一人一人の学力向上 ～学びに向かう力と深い学び(思考力・表現力)～	全クラスで前期・後期それぞれ1回ずつの公開授業研究を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語科を中心とした校内テーマ研究において、全研授業2回、部研授業2回、学年授業13回実施し、組織的に授業力の向上に取り組んできた。また、副読本「ぬくもり」を教材とした公開授業を通して、教材の味方・考え方など授業改善についてもスキルアップを図ってきている。さらに、1年次教員の算数科・理科による査定授業を実施する中で、着実に子どもたちの思考力・表現力を高める授業の在り方を追究することができた。 ○ チャレンジタイムやふれあい学び舎事業による基礎学力の定着、主に算数の補充学習などを通して、子どもたちの学びに向かう力を高めている。 	
	授業改善の視点として、教師の発問を中心に協議会を実施する。		
	ふれあい学び舎による学習習慣の定着と算数の底上げを図る。		
	火曜日のチャレンジタイムを柔軟に活用し、検定・○付けと基礎基本の定着を組み込む。		
信頼される学校・学級経営 と人間性豊かな心の育成 ～多様性を認め合う主体的な関わりと寛容の心～	『ぬくもり』教材を扱った教材研究と授業公開を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4年生の授業公開をとおして、「ガイジ」発言を取り上げた教材を全教員で分析、研究し、差別に対する見方や教職員の人権感覚を高めることができた。 ○ 全学年が学年ごとに「かがやき学級」との交流会を行い、特別支援教育への理解を深めるとともに、多様性を認め合う心のふれあいを実施することができた。 ○ 学校公開週間における保護者アンケートの結果は、①関わり:生き生きと楽しんで活動している81% ②粘り:取り組む姿に落ちつきがある75% ③役割:真剣に取り組む様子がある85% ④思いやり:よさを認め合う温かさがある72%であった。 ○ 不登校児道の改善には至らず、人数の微増がある。 	
	通常学級と特別支援学級との交流の活性化を図る。		
	不登校児童(2名)の出席日数を10%増やすとともに、30日未満の欠席児童の数を10%減らす。		
	『4つの“り”』の具現化について、学習参観毎にアンケートを行い、肯定的回答80%をめざす。		
自己指導力の向上 ～規範意識の確立と自己有用感を高める～	Q-Uテストを2回実施し、自尊感情・規範意識の肯定的回答を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 異学年構成による縦割りグループを構成し、縦割り掃除や縦割り集会を通して、高学年児童のリーダーシップ、低学年への温かい関わり方などに自覚と責任を持たせることができています。 ○ 地域が認めるあいさつ・返事については、「自分から地域の人へ挨拶している」という保護者アンケートの結果から、79%ができていたとの評価を得ているが、2割が目標達成に至らず十分ではない。 ○ 学校や学年・学級の「きまり」や「やくそく」については、全体的に落ち着きのある学校生活を送ることができており、おおむね良好といえる。 	
	縦割りグループによる活動の自己評価(役割・責任・達成感)を実施する。		
	地域が認める挨拶や返事ができているか、児童と保護者の双方からアンケートを取り、結果を公表していく。		
	全校統一で青色ファイルに「やくそく」「きまり」を入れて、年間3回及び適宜、指導の徹底を図れるようにする。		
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学校の活力を上げる」ということに関して、指標を示して調査している資料の中に、「組織的に取り組む」「校内研究に取り組む指導力を上げる」「地域と連携を図る」と、学校力の効果が期待できる。 ○ いじめ防止対策の取り組みも、組織的速やかに対応していることを評価する。 ○ 国語科を中心に研究も推進し、地域の教育力も得て子どもたちを育成しているので、当仁小学校の学校力がより増していると考えられる。 ○ 日ごろから当仁小の学校経営に全職員一丸となり、真剣に取り組む姿には感心させられる。このご時世、先生たちも大変だろうが、子どもたちのため頑張ってもらいたい。 ○ いじめの未然防止についても、不登校、虐待等々についても、まずは、「気づく」ということが非常に大事な仕事であると認識すべき。 ○ 元気な、人を思いやること出来る当仁小の児童であり続けられるよう先生たちの頑張りに期待する。 ○ 3つの重点目標は、今から子どもたちが生きていく上でとても大切なことだと思う。周りから応援しながら見守りたい。 			